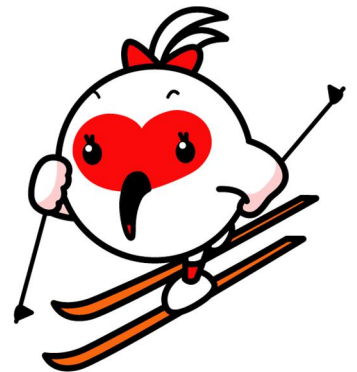
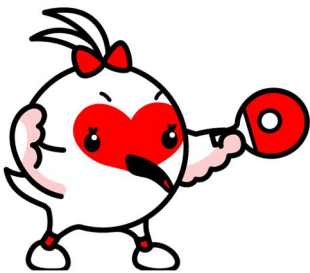


令和 **7** 年度

学校における体育・健康に関する指導の充実を図る学校訪問

# 報 告 書



この取組は、健康の保持増進と体力の向上を目指した教育の充実に努める学校を訪問し、学校の教育活動全体を通じた取組や体育・保健体育の授業等を参観し、優良な実践を広く周知することで県内の体育・健康に関する指導の充実を図ることを目的に令和6年度より始めました。

訪問校については、「新潟県体力テスト」の体力数値、アンケート結果を新潟青陵大学の協力を得て解析を行ったデータを参考にして選定しました。

本年度の訪問校について、その取組や授業の様子を報告書にまとめました。特に小中学校については、児童生徒数（学校規模）を選定基準の一つしましたので、より自校の状況に近い学校の様子を参考としていただけるものと考えております。

県教育委員会では、各校における体育・健康に関する指導をはじめ、体育・保健体育の授業づくりを今後も支援してまいります。

新潟県教育委員会

## [訪問校]

- 1 長岡市立日吉小学校
- 2 聖籠町立市亀代小学校
- 3 燕市立燕西小学校
- 4 柏崎市立第五中学校
- 5 三条市立下田中学校
- 6 妙高市立新井中学校
- 7 新潟県立柏崎総合高等学校
- 8 新潟県立白根高等学校
- 9 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校



〈スクールデータの見方〉 児童生徒数 ※令和7年5月1日現在の学校基本調査の人数

学校の平均値 ※令和7年度新潟県体力テストのアンケート調査結果

4択形式のうち肯定的評価の学校男女平均(県男女平均) ○県平均以上

○運動・スポーツをすることは好きですか。「好き」、「やや好き」、「やや嫌い」、「嫌い」で回答。

⇒ 運動・スポーツが好き

○運動やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がありますか。それぞれに「ある」、「ややある」、「あまりない」、「ない」で回答。

・運動やスポーツをすること ⇒ する

・運動やスポーツを見ること ⇒ 見る

・運動やスポーツを支えること ⇒ 支える

・運動やスポーツを知ること ⇒ 知る

・運動やスポーツを通じて様々な人が集まって交流したり、つながりや一体感を感じたりすること ⇒ つながる

○体育・保健体育の授業は楽しいですか。「楽しい」、「やや楽しい」、「あまり楽しくない」、「楽しくない」で回答。⇒ 体育の授業が楽しい



### 「ここに注目！」

各校を訪問した際に授業者や体育主任の先生方と情報交換させていただいたり、ご質問を受けたりした内容を基に記述しました。当該校だけでなくすべての学校の参考となる内容が含まれていますのでぜひご一読ください。

**〈スクールデータ〉38名**

学校の平均値

運動・スポーツが好き 94.7%(県 88.7%)○

運動・スポーツへの興味・関心

する 92.1%(県 85.3%)○

見る 78.9%(県 67.4%)○

支える 44.7%(県 52.7%)

知る 76.3%(県 67.7%)○

つながる 86.1%(県 64.2%)○

体育の授業が楽しい 100%(県 91.6%)○

訪問校1

**長岡市立日吉小学校**

訪問日 令和7年12月1日(月)

**学校紹介**



【上左】外部指導者を活用し、全校児童が毎年取り組む「日吉ダンス」。1学期に3回の練習を行い最後は全員で発表する。  
【上右】十分な用具やスペースをできる限り開放している。昼休みにはストレスなく思い切り体を動かす姿が見られる。

旧三島郡三島町に位置し、創立 130 周年を迎える歴史をもつ。平成 7 年に現在の校舎が建った時点では約 140 名が在籍していたため、現在の児童にとって校舎施設は十分な広さ、大きさがある。ボールやラケットなどの用具も数が揃い、広々とストレスなく体を動かす環境が整っている。

この環境を活用し、安全を確保した上で、できるだけ多くのスペースや用具を児童が自由に使えるよう開放している

【右】「日吉マラソンタイム」が3回行われる。児童は、1000、1500、2000、2500mから距離を選んで完走を目指す距離走と 1500mのベストを目指すタイムトライアルに取り組む。休み時間を使って練習する児童もいる。当日は保護者や地域の方も応援に訪れ、一緒に伴走して下さる方もいるイベント。



**授業 1 1・2年生「ベースボール5」(E ゲーム/ア ボールゲーム)**

【単元について】ベースボール5(5人制野球)を簡略化した遊びを教材化した。「やってみたい」、「やってみよう」という気持ちを基にルールを児童が工夫し、選んだ方法での取組を教師が支援するようにしている。学習のスタートでは大きめのボールを使用していたが、児童と相談して本時では小さめのボールを用いた。

【本時のねらい】

- ・得点につなげるためのボールの蹴り方や攻め方について話し合っ考えることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・順番や規則を守り誰とでも仲よく活動できる。(学びに向かう力、人間性等)



準備運動では遊びの要素を取り入れた様々なメニューに取り組んでいる。※本時では鉄棒、エアボール 少人数のメリットを生かし、全員の気持ちや意見を大切にしながら、児童の「やってみたい」を教師が上手に引き出している。



課題がありゲームが止まった際には、全員に発言する機会を与え、一人一人の気持ちを全員で考えさせるようにしている。具体的な場面、行動を取り上げ、タイミングを逃さずに指導している。個々の実態が細かに把握されているため、**個に応じた課題設定、声掛け等がなされ、「個別最適な学び」につながっている。**

## 授業2 3・4年生「跳び箱運動」(B 器械運動)

【単元について】跳び箱運動の楽しさを味わうことができるよう、感覚づくりにつながる動きを準備運動に取り入れている。また、補助具を用意したり、練習方法を示したカードを準備したりすることで課題に応じて練習できるようにしている。授業の導入・まとめでは、タブレット端末を使用し、めあてと振り返りを入力するようにしている。

【本時のねらい】自己の能力に適した課題を見付け、練習の場や方法を選んで取り組み、考えたことを友達に進んで伝えることができる。(思考力、判断力、表現力等)



少人数のため全員で準備・後片付けが行われる。「学びに向かう力、人間性等」の評価にあたり、**具体的な活動を取り上げて意味付け、価値付けが行われ、児童の資質・能力の育成が図られている。**準備運動には、**主運動につながる動きが複数盛り込まれ、様々な態勢で身体を支える感覚を養うなどの工夫がなされている。**



タブレット端末を用いた学習カードには、**共通のフォーマットが準備されており、児童は決められた部分にまとめるべきことを入力できるようになっている。**ペアで撮影し合った画像を貼り付ける位置も予め枠組みが作られているため、動作について支援を受ける児童は見られない。**練習の場が複数用意され、児童は自らの課題に合わせて練習に取り組んでいる。**



教師と児童と一緒に授業を作り上げている様子が伺え、一体感が醸成されていました。運動・スポーツを通じた「つながりへの興味・関心」が県平均を大きく上回る要因とも感じました。「指導と評価の計画」が準備され、運用されていました。少人数のため、評価のタイミングは通常よりも多く確保できそうですが、複数学年での実施でもあるため、指導内容の系統性や評価規準に留意しながら余裕をもった評価項目の設定が望ましいと考えます。

## 訪問校2

**聖籠町立亀代小学校**

訪問日 令和7年12月3日(水)

**学校紹介**

旧亀代中学校(2001年廃校)区にあり、聖籠町の中でも運動・スポーツ活動への期待が大きい地域である。持久走記録会など体育的なイベントには、保護者をはじめ地域住民も訪れる。

校地は広く、生徒玄関前にも広々とした校庭に遊具が整備されている。訪問日は小雨だったが、休み時間には外に遊びに出る児童の姿が見られるなど、学校の雰囲気から活力が感じられた。

児童会(健康スポーツ委員会)が企画するスポーツイベントが毎年開催されている。また、町内の小中学校が連携して、年4回のメディアへの関わり方や睡眠時間など生活習慣を見直す期間が設けられている。

5、6年生はスキー教室を実施しており、スキーブーツの履き方、ビンディングの着脱指導などを学校で行っている。また、昨年度より民間スイミングスクールと連携した水泳授業を町全体で進めており、5、6年生は11月、4年生は6月など指定された時期に学習を行っている。

「体育の授業が楽しい」は県平均を上回るが、特筆すべきは「体育の見方・考え方」に関係する5項目がいずれも90%を超えている点である。

**授業1 2年生「ボール蹴りゲーム」(E ゲーム/ア ボールゲーム) ※2学級**

【単元について】ディフェンスを避けてゴールを目指す遊び・ゲームを通して、ねらった方向にボールを蹴る動作、仲間と連動した動きなどについて学習を進めていく。数的に優位のオフense側が1列に並んだ状態からスタートする、比較的再現性の高い設定にすることで、チームでの活発な話し合いを誘発したい。

【本時のねらい】守りに近い位置をねらう場合と守りから遠い位置をねらう場合を比較して、ディフェンスに捕らえられないようにねらって蹴る動作のよさがわかる。



体育館に4面を設定し、それぞれ壁に向かって攻撃するゲーム。ディフェンス側は、壁にボールを当てられないよう守備する。導入では、前時の課題を全員で確認して、本時のねらいを設定している。ゲーム前の話し合い活動では、教師の働きかけにより課題がより具体的にイメージできているため、いずれのグループでも活発な意見交換が進められている。



話し合いのテーマ=課題が具体的に示されているため、ゲーム中の話し合い活動にも熱心に取り組んでいる。学習カードには、めあてを記述する欄が設けられおり、書くことで意識できるようにレイアウトされている。

## 授業2 5年生「跳び箱運動」(B 器械運動) ※2学級

【単元について】技を失敗することへの恐怖心や不安感を抱く児童が多いことから、誰もが参加しやすい場づくりに注力している。かかえ込み跳びのために跳び箱を二つ並べてその間を跳ぶようにしたり、ステージに跳び上がったたりするなど、失敗する心配を取り除くようにする。また、タブレット端末を活用し、自他の動きを比較してポイントを伝え合うことで技の習得を支援するようにする。

【本時のねらい】自己の課題に応じた練習の場や仕方を選んだり、友達と技を見合い、教え合ったりする活動を通して、基本的な技の習得に向けて、挑戦することができる。



体操の他に準備運動には、主運動につながる体を支える動きなども取り入れられている。本時のねらいを確認する活動では、視覚的な情報と合わせて教師が説明を行い、見通しをもたせるようにしている。準備・片付けは非常にスムーズで、それぞれが分担された役割を果たそうとする姿が見られる。



練習の場の工夫は充実しており、児童が各々の課題に応じてチャレンジできるようになっている。それぞれの練習場では、試技を終えた児童が安全を確認したら手を挙げるようルールが設定されるなど、安全指導が徹底されている。MT が授業をマネジメントし、ST が安全面を支援するよう役割が分担されている。



いずれも2学級での授業でしたが、集団がしっかりコントロールされており、危険を感じる場面はありませんでした。特に児童自らが安全に気を配り、意欲的に練習に取り組む姿は指導の成果であると感じます。「思考力、判断力、表現力等」については、特に低学年の場合は学習カードの記述から読み取ることが難しいため、一問一答スタイルで内容を絞ってまとめさせる、あるいは学習内容に対して数値で評価させるなど、振り返りの仕方を工夫するのも手立てとなります。

運動・スポーツが好き 93.0% (県 88.7%) ○

運動・スポーツへの興味・関心

する 85.8% (県 85.3%) ○

見る 73.8% (県 67.4%) ○

支える 69.0% (県 52.7%) ○

知る 73.5% (県 67.7%) ○

つながる 75.4% (県 64.2%) ○

体育の授業が楽しい 93.6% (県 91.6%) ○

## 訪問校3

**燕市立燕西小学校**

訪問日 令和7年12月3日(水)

**学校紹介**

燕市中心部に位置する6学年19学級(通常学級)の大規模校。複数学級同時に体育授業を展開させる必要があるが、球技などの場合は2学級までの制限もあり、単元指導計画を立案し、流動的に運用している。本年度は体育専科教諭が不在のため、各学年に体育担当を置き、体育主任と連絡調整を図っている。

くしゃくしゃにした新聞紙を握り潰す遊びや紙鉄砲を思い切り鳴らす遊びなどを運動プログラムとして、児童会・運動委員会が企画、運営している。毎年、体力テスト前に実施し、遊びを取り入れながら体力が高められるような工夫をしている。

燕中学校区で学校保健委員会を開催し、保健に関する指導について課題を共有したり、共通した取組を実施したりしている。

**授業1 4年生「マット運動」「鉄棒運動」(B 器械運動) ※2学級****【本時のねらい】**

**マット運動 1/6 時間** 場の準備の仕方やマット運動の行い方を知り、いろいろな運動遊びをしたり、自分ができる技を確認したりすることができる。

**鉄棒運動 2/6 時間** 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場を選んだりすることができる。



同じ器械運動ではあるが、進捗が異なる2学級が展開してそれぞれの運動に取り組んでいる。もう一方の学級が活動する音情報が常に入るため、教師が説明したり、指示を出したりする際は、できるだけ教師の近くに集合させ、聞く体制を整えるとともに、自身に注目が集まるよう意識されている。



危険防止のためにコーン・バーでレーンが区切られ、動線がしっかりと示されている。児童は順番をきちんと守り、それぞれの課題に取り組んでいる。再び列に戻る前に、学習カードで技の出来栄え(ポイント)を確認し、クリアできたと判断した場合はチェックを入れていく。

授業2 1年生「マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊び」(B 器械・器具を使つての運動遊び) ※4学級

【本時のねらい】

マット運動 1/4 時間 マットを使った運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がり、手で支えて体の保持や回転ができる。

鉄棒運動 2/4 時間 鉄棒を使った運動遊びの楽しさに触れ、支持しての跳び上がりや跳び下りをしたり、ぶら下がりや優しい回転をしたりできるようにする。

跳び箱運動 1、2/4 時間 跳び箱を使った運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり、ジャンプをして跳び下りたりすることができる。



1組は跳び箱(1/4 時間)、2組は鉄棒(2/4 時間)、3組はマット(1/4 時間)、4組は跳び箱(2/4 時間)と4学級が同時に展開。同時展開、大規模集団のメリットを生かし、各学級担任に加えて支援員や介助員など多数の大人の手を借りながら、準備・後片付けを進めている。



ワンフロアを安全に、効率よく使用できるよう活動場所、用具の配置が工夫されている。同時に3つの運動に取り組む場合は用具に余裕がなくなり、様々な練習場所を準備することは難しいが、単元計画(進捗状況)を調整することで補っている。

ルールを守ること、順番を守ることが徹底されているため、取り掛かり、入れ替わりのタイミングが速い。そのため、児童数は多いものの、ある程度の運動量がしっかり確保されている。



ほとんどが複数学級での授業とのことですが、小さく集まり、座って説明を聞くなどの指導が徹底されており、様々な音情報が飛び交う中で1年生もしっかり教師の説明を聞いていました。そしてその姿からは、学級経営がきちんと行われていることが伺えました。1年生のマット運動では児童が自然に補助を行う姿を目にしました。こうした場面を取り上げ、価値付けすることで互いの安全を確保したり、技の習得を助けたりする「補助動作」に発展していくことが期待されます。学級数が多く、担当者が連絡調整を行っているとのことだったので「指導と評価の計画」の必要性をより強く感じました。これは6年間の系統的な学びにつながるもので、整理されることで特に第5学年及び第6学年では、卒業後の学びも意識した授業になると思われます。

**〈スクールデータ〉20名**

## 学校の平均値

運動・スポーツが好き 84.2%(県 81.9%)○

運動・スポーツへの興味・関心

する 82.4%(県 81.0%)○

見る 82.4%(県 82.7%)

支える 64.7%(県 58.7%)○

知る 82.4%(県 75.4%)○

つながる 76.5%(県 66.1%)○

体育の授業が楽しい 94.1%(県 88.4%)○

## 訪問校4

**柏崎市立第五中学校**

訪問日 令和8年1月22日(木)

**学校紹介**

旧高柳町と隣接する鯖石地域の南鯖石中と鯖石中を統合して、昭和45年に発足。平成29年に新校舎が完成し、最新の床材を張った体育館や広い廊下やオープンスペースを備える素晴らしい施設の中で教育活動が展開されている。

近年は少子化による生徒減少が続き、令和9年度に柏崎市立東中学校と統合されることが決定している。

小規模校ではあるが、部活動や地域クラブ活動に参加する生徒

の割合が高く、それぞれが運動する機会を確保している。地域に根差した教育の一環として、毎年10月に開催される「鯖石ロードレース」には全校生徒で参加し、イベントの盛り上げに寄与している。これに合わせて体育授業では、長距離走に取り組み、体力向上を目指す取組ともなっている。

**授業1 1、2年生「ゴール型（バスケットボール）」(E 球技)****【単元について】**

## (1) 学びに向かうためのチーム内ゲーム、チーム課題

ボールを持った動き・持たない動きを分類しながら、自分がどのようにプレイに参加すればよいのか、その手掛かりとなる視点を整理していく。

## (2) ゲーム参加を促す「マイ・プレイカード」の作成

ボール操作ができる・できないの発想からの脱却を目指す。分類した動きからできそうなものを選択し、そのプレイをどう生かせるのか抽出して学びを深めていく。単元の後半では、チーム内でカードを共有しながら戦術の幅や質を深めていく。

## (3) シェアリングタイムを通じた学びの深化

特に苦手になっている生徒が、プレイに関与できた喜びや実感を味わうことができるための振り返り場面を設定する。共有を通して、ボールを持たない動きの重要性、またゴール型ゲームならではの特性に迫る。

**【単元を貫く課題】**

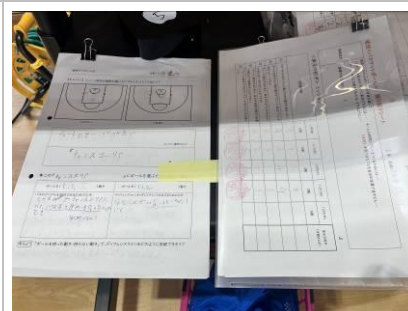
ディフェンスラインを突破して「チャンスエリア」にボールを運ぶためのコツ(=「マイ・プレイ」)を見付ける。



授業の導入では、前時にデジタル提出した「マイ・プレイカード」について、指名された2名が全体に対してカードの内容について説明、共有した。大型モニター、ホワイトボードを用いて、視覚的情報を提供しながら授業のねらいを説明している。また、活動に入る前にしっかりと本時のねらいについて理解するための時間が設定されている。



思考力、判断力、表現力等の育成を目指し、いずれの単元でも「シェアリングタイム」を位置付けている。単なる作戦会議ではなく、本時のねらい＝課題が明確になっていることから、生徒が必要を感じながら活発な話し合いを展開している。また、教師が適宜加わり、問いを投げかけたり、生徒の発言を聞き取ったりしている。



自らが作成した「マイ・プレイカード」に沿って、それぞれが役割を果たそうと目的をもってプレイしている。ゲーム終了後も自然と「シェアリングタイム」に移行する姿が見られる。学習カードは単元の前半と後半で使い分けられ、記述欄の他に学習のポイント（＝評価規準）に対して数値で評価する欄を設ける工夫をしている。

課題	チーム内ゲームを主とした「マイ・プレイカード」の作成				「マイ・プレイカード」を組み合わせた戦術でゲームを楽しむ			
	1	2	3	4:本時	5	6	7	8
ねらい	学びの見通しをたてる ゲームの競走目的(特性)を理解する	ボールを持った動き、持たない動きの良さを見つける	チーム内ゲームを通して自分に合ったプレイを探る	「マイ・プレイカード」を完成させる。	カードを組み合わせてチーム戦術をつくる 「マイ・プレイカード」を練り上げる			貴く課題に対する 考えをまとめて発表する
導入	基本的なシュート、ボールハンドリングに慣れる				ゲームをイメージしたシュートやボールハンドリングの技能を高める			
前半	チーム内ゲーム	チーム内ゲーム	チーム内学習	学びの共有	チームミーティング	チーム間ゲーム	チーム間ゲーム	チーム間ゲーム
後半	チーム間ゲーム	学びの視点の整理	カード作成	チーム間ゲーム(試)	チーム間ゲーム	チーム内ゲーム	チーム間ゲーム	発表
振り返り	個人のまとめ	シェアリングタイム	シェアリングタイム	個人のまとめ	シェアリングタイム	個人のまとめ	シェアリングタイム	個人のまとめ
評価	知技 思判 主体	知技 思判 主体	知技 思判 主体	知技 思判 主体	知技 思判 主体	知技 思判 主体	知技 思判 主体	知技 思判 主体
ICT		●	●	●	●	●	●	●
学び合い		●	●	●	●	●	●	●



全員が個々の役割、長所を生かした「マイ・プレイカード」を作成し、組み合わせたカードによってチームの特徴が変化していくという単元構想は、学習にストーリー性があり、生徒が自主的に課題解決を図っていく様子を見ることができました。小規模校のため、男女共習が当たり前のように行われており、特別支援学級所属の生徒も生き生きと自らの役割を果たそうとする姿からは、単元構想の素晴らしさとともに共生の視点を踏まえた指導が日頃から行われていることを感じました。国立教育政策研究所が示す書式に授業展開を組み込み、より自らが使いやすいように整理した「指導と評価の計画」を用い、指導と評価の一体化が図られていました。また、繰り返し学習にならないよう、1、2年生でそれぞれの指導内容について系統性を意識して生徒と共有されている点からは、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を進めるために日頃から研鑽されていることが伺えました。

運動・スポーツが好き 82.4%(県 81.9%)○

運動・スポーツへの興味・関心

する 82.9%(県 81.0%)○

見る 72.0%(県 82.7%)

支える 59.2%(県 58.7%)○

知る 62.9%(県 75.4%)

つながる 69.1%(県 66.1%)○

体育の授業が楽しい 92.6%(県 88.4%)○

訪問校5

**三条市立下田中学校**

訪問日 令和7年12月10日(水)

**学校紹介**

三条市の東南、下田地域に位置し、昭和 61 年の学校統合によって創立。本年度 40 周年を迎え、様々な教育活動が展開されている。広大な校地に 400mトラック、グリーンサンドのテニスコート等を備え、校門脇には下田体育館があるなど恵まれた環境が整う。かつては、南蒲原郡中学校陸上競技大会、中越地区中学校駅伝競走大会の会場校であった時代もあり、地域的に運動部活動に対して熱心な土地柄である。部活動加入率も高く、地域クラブ活動も含めるとほぼ 100%に近い。

広い学区には、長沢小、笹岡小、大浦小、森町小、飯田小と 5 つの小学校があり、下田中学校と 6 校で「ただの郷学園」を構成している。小中連携が密に図られており、地域連携、共同授業・共同活動、評価・広報などこの組織を母体に様々な活動が展開されている。令和 10 年度には統廃合により 1 小 1 中体制に移行する予定である。

**授業 1 2 年生「柔道」(F 武道)**

【単元について】1 年次の学習を基にしながら、引き続き基本動作に焦点を当てる。前半は受け身や礼法などを中心に授業を展開し、後半は基本的な技の習得から固め技の簡易的な試合を行うことで相手と勝敗を競う楽しさを味わわせたい。

**【本時のねらい】**

- ・仲間と教え合いながら、より良い固め技を考え実践することができる。
- ・互いの安全に気を付けながら、固め技を展開することができる。



礼法指導が行き届いており、内履きや学習用具が整然と並べられている。体育館ギャラリーに畳を敷いて簡易的に武道場を設置しているが、コンクリート床であること、畳がそれほど新しくないことから危険性を考慮して、投げ技は立ち膝姿勢から行うこととしている。見学者も柔道衣を着用し、副読本を用いて授業に参加している。



4人グループで互いの固め技について観察して意見交換を行うなど、対話的な学習活動も位置付けられており、学びを深める手立てが講じられている。特に運動観察では、見るポイント=伝えるポイントが示されているため、各グループでは活発なやり取りが見られる。

## 授業2 3年生「ベースボール型」(E 球技) / 「柔道」(F 武道)

【単元について】2年次までの学習を基に、ゲームを多く取り入れることによって、フェアプレイを大切にすることやチームでの話し合いを大切にするを指導していく。単元を通じてチームを固定せず、新しいチームで互いに教え合ったり、課題を伝え合ったりできるようにしていく。

【本時のねらい】仲間と教え合いながら、状況に応じた攻守を展開することができる。



猛暑対応などにより実施時期が遅れ、本年度はソフトボールが屋内実施となった。用具を工夫し、安全面に配慮した中で授業が行われている。導入・まとめでは、ホワイトボードが用いられ、視覚的情報も提供されている。



ゲームを進める中で、生徒自らが必要性を感じたタイミングでミーティングをもつよう設定されている。プレイの振り返り、ポジションの打合せなどを適宜行う生徒の姿が見られる。



訪問日は厳しい寒さを感じる日でしたが、その中でいずれの生徒も意欲的に活動に取り組む姿が見られました。導入・まとめでは、授業者が具体的な言動を取り上げて「学びに向かう力、人間性等」に触れる場面が設けられ、きちんと意味付け、価値付けが行われていました。学習指導要領では、学習評価の充実が求められていることから、「この時間で何をできるようにするのか。それをどのタイミングで、どうやって見取り、生徒にフィードバックするのか」を明確にする必要があります。また、学びの系統性、適切な指導計画の作成と内容の取扱いを考える上でも「指導と評価の計画」は有効です。「男女共習」については、共生についての学習と合わせて、例えば柔道の単元において運動観察後の意見交換を男女グループで行ったり、ベースボール型球技の単元の一部に男女合同チームでのゲームを位置付けたりするといった事例が考えられます。実態に合わせながら、一単位時間ではなく単元全体でレイアウトすると取り組み易くなります。

## 訪問校6

**妙高市立新井中学校**

訪問日 令和7年12月11日(木)

**〈スクールデータ〉529名**

## 学校の平均値

運動・スポーツが好き 86.7%(県81.9%)○

運動・スポーツへの興味・関心

する 85.8%(県81.0%)○

見る 83.2%(県82.7%)○

支える 60.5%(県58.7%)○

知る 71.1%(県75.4%)

つながる 78.5%(県66.1%)○

体育の授業が楽しい 94.3%(県88.4%)○

**学校紹介**

旧新井市の中心に位置する大規模校で、県立新井高等学校、新井文化ホール、妙高はねうまアリーナ、新井総合運動公園などが近接するエリアにある。運動部活動が盛んな地域であり、保護者も協力的である。本年度も野球、男子バレーボール、卓球部、体操部、女子駅伝が北信越大会に出場するなど多くの部が活躍している。

学区は非常に広く、市街地だけでなく平丸、西谷などの山間部を含むため、スクールバスを利用して通学している生徒も多い。

体力合計点は県平均とほぼ同程度だが、「体育の授業が楽しい」「やや楽しい」の肯定的評価は 94.3%と極めて高い。特に「やや楽しい」を除いた強い肯定である「楽しい」は 62.8%と県内同規模の中学校の中では突出している。同様に「運動・スポーツが好き」でも 62.3%が「好き」と回答している。

**授業1 1年生「柔道」(F 武道)****【本時のねらい】**

- ・基本となる受け身（後ろ受け身、横受け身、前回り受け身）を正確に行うことができる。
- ・けさ固めを正確に行い、相手を抑え込むことができる。
- ・「取」の崩しや体裁きに応じて、安全に横受け身を行うことができる。



技能と知識が結びつくよう、固め技の指導では姿勢や体さばきだけでなく、「抑え込みの条件」について繰り返し説明されている。見学者も副読本の該当ページを確認しながら、授業に参加している。

**授業1 1年生「現代的なリズムのダンス」(G ダンス)****【本時のねらい】**

- ・課題のステップ（規定のダンス）を正確に行うことができる
- ・各班独自のフリーステップ、隊形、ポーズ、高さの工夫をレベルアップさせる。
- ・班のダンスを撮影し、より完成度の高いダンスを目指す。

各グループの練習場所における個人端末の他に撮影用エリアが中央に2面、動きを確認できる練習用モニターが2台準備され、必要に応じて活用できるよう場の工夫が行われている。ICT機器を最大限に活用するなど場の工夫が、生徒の自立した学習を促している。



## 授業2 3年生「マット運動・跳び箱運動」(B 器械運動)

### 【本時のねらい】

- ・既習の前転グループ、後転グループ、倒立回転・倒立回転跳びグループ、片足平均立ちグループの技から3種類の技を選択し、連続技を考える。
- ・一つ一つの技の完成度を高めるとともに、3つの技を組み合わせて連続技を練習する。
- ・仲間と協力して、連続技の動画撮影を行う。



ウォーミングアップには、動物の動きや体を支える動き、跳び箱ジャンプなど主運動につながる動きを組み合わせたサーキットが設定されている。ある程度の強度の運動を短時間で効率よく行う工夫がされている。



跳び箱運動において回転系の技に取り組む際には、教師が生徒の技能に応じて補助を行い、安全に活動できる環境を整えている。マット運動では、身振り手振りを交えて教え合う姿が見られる。体育館入口には、体力テストの種目別ランキングが掲示されている。



全学年、すべての単元において「評価ルーブリック表」が作成されており、評価規準・評価基準が教師、生徒、保護者の間で共有されていました。これらは他教科を含め、学校全体で行われているとのことで、指導と評価の一体化を図る上で大変有効な取組であると考えます。さらに毎年、見直しを加えているのですが、「思考・判断・表現」において“他者に伝える”部分を加えるなど、学習指導要領解説を参考に確認するとより充実したものになると考えます。複数教員配置校においては、第3学年で選択して学習ができるようにすることが求められていますので、教育課程の更なる工夫を加える余地もあります。(学習指導要領解説では、単数教員配置校においても生徒の希望ができる限り可能となるよう工夫することを求めています。)

### 建体育科 「器械運動」 評価ルーブリック表

めざす姿	評価の方法	特に優れている	
		S	A
器械運動の技能の説明や知識、練習方法の進め方を理解している。	・知識テスト ・レポート	知識テストで年間90%の正答率を達成している。	知識テストで年間100%の正答率を達成している。
器械運動の基本的な技能を習得するための準備運動が正確にできている。	・技能テスト	基本技を習得するためのすべての準備運動を正しく理解し、正確に行うことができている。	基本技を習得するための準備運動を正しく理解し、正確に行うことができている。
マット運動の基本的な技能から高度な技を習得できる。	・技能テスト	○最も高い演技課題をより滑らかに、ダイナミックに演技ができている。 (フリップ、片足平均立ち) ○継続におけるフリップの技の完成度が高く、着地をしっかり決めることができている。	○自分に合った比較的高難度の課題で演技ができている。(目隠し、片足平均立ち) ○継続におけるフリップの技の完成度がより高く、ダイナミックに演技ができている。
跳び箱運動の基本的な技能から高度な技を習得できる。	・技能テスト	○自分に合った難易度の高い演技課題をより滑らかに、ダイナミックに演技ができている。	○自分に合った比較的高難度の課題で演技ができている。(目隠し)

## 訪問校7

## 県立柏崎総合高等学校

訪問日 令和7年11月26日(水)

## 〈スクールデータ〉 347名

## 学校の平均値

運動・スポーツが好き 74.1% (県 79.1%)

運動・スポーツへの興味・関心

する 72.7% (県 75.3%)

見る 69.5% (県 73.8%)

支える 41.0% (県 56.8%)

知る 52.3% (県 73.3%)

つながる 64.0% (県 61.7%) ○

体育の授業が楽しい 84.0% (県 83.0%) ○

## 学校紹介

平成 14 年に柏崎商業高等学校と柏崎常盤高等学校被服科を統合して総合学科に改組し、柏崎総合高等学校となった。「人文・自然」、「アグリ・フード」、「ビジネス・情報」、「生活・福祉」の 4 系列の科目群から選択する総合高校で、旧農業高校ならではの温室や食品製造棟などの施設が整い、さらに総合学科の設置による新しい実習教室などが整備され、多面的な教育を展開している。

体育的 school 行事として、スポーツ大会や球技大会のほか、学校と鶴川周辺を走るマラソン大会（男子 5 km、女子 3 km）を実施している。

学級数は、各学年 3 学級の 9 学級で、生徒数は 347 名（男子 103 名、女子 244 名）である。

体力合計点は県平均を下回っているが、体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」の肯定的評価と、興味・関心の「つながる」は県平均を上回っている。



## 授業 1 2 学年「キックベース」(E 球技：ベースボール型)

## 【単元について】

キック、キャッチ、スローといった技能を身に付けながら簡易ゲームを行い、ルールを理解できるようにする。単元の後半ではチームで作戦を考えてゲームを行い、チームの課題を改善するための練習に計画的に取り組み、ベースボール型の特性を楽しめるようにする。単元の時数は 1 2 時間。

## 【本時のねらい】

- ・試合を通して、状況に応じた打球コントロールと守備の動きができるようにする。



球技:ベースボール型の授業は、ルールを理解しながらベースボール型の特性を味わうことができるように、古いバレーボールを用いてキックベースのゲームが行われた。古いバレーボールは、ボールが飛び過ぎないように空気圧を調整し、本時のゲームの目的に適したボールとなるように工夫されていた。また、生徒自身にジャッジさせることでルールの理解を確認したり、教師が場面の状況を客観的に解説することで生徒が作戦を考えるヒントを得たりする工夫が見られた。教師の肯定的な声掛けと、スピーカーから流される野球の応援 BGM によって、臨場感のある中でゲームが展開され、生徒はチームで協力しながら取り組み、楽しそうに活動していた。

## 授業2 2学年「バドミントン」(E 球技: ネット型)

### 【単元について】

単元の前半は基本技能を確認し、自己の課題を見つける。後半はペアやグループで課題を改善するための練習方法を計画し、ハーフコートゲームを中心にしながら課題の改善と再発見を繰り返し、ネット型球技を楽しみながら特性の理解が深まるようにする。単元の時数は12時間。

### 【本時のねらい】

- ・ハーフコートゲームにおいて、基本ショットを打ち分けられるようにする。



シングルスコートを縦に半分にしたハーフコートでゲームを行うことで、技能差を減少させて基本ショットの打ち分けに取り組みさせる工夫が見られた。また、相手との合意によってアドバンテージを設定できるように工夫することで、生徒が意欲的に取り組んでおり、勝敗を競い合う楽しさを味わっていた。対戦表には本時の目標も示されており、教師は肯定的な声掛けとともに本時の目標を常に意識させる声掛けを行い、生徒は打ち分けの意識を高めてゲームを楽しんでいた。

この単元は球技「キックベース」「バドミントン」「卓球」の選択としている。



すべての体育授業において、開始時のランニングは、デジタルタイマーを活用し、体育館1周のタイムを設定してペース走とすることで1年を通してランニングのペース感覚を養っている。

大型プロジェクターを活用して動画から動きを学習する機会を設けたり、ランニングの際にスピーカーから音楽を流したりするなど、生徒が楽しく取り組める工夫をしている。

時間を守って集合することや、説明や話を聞く際の姿勢等も教師の肯定的な声掛けから習慣化し、良い雰囲気の中でメリハリのある活動ができている。



各学年3学級のため、1・2組は2クラスの合同授業、3組は単独クラスでの授業としているが、単独クラスでの授業であっても生徒が希望の種目を選択できるように、2クラスでの授業と同様の種目を実施している。その中で、人数や性別、技能の程度によらず全員が意欲的に取り組むことができるようにコートの大ささ、ルール、用具等を工夫し、学校の施設や設備を活用することで、楽しさや喜びを味わうことができるように取り組んでいる。生徒の男女比は3:7であり、男女共習の体育授業では、どのようにしたら皆で楽しめるかを生徒が中心となって考え、教師が柔軟にルールや用具を工夫したり、生徒の活動に加わったりすることで、全員が協力しながら種目の特性を楽しめるように授業が展開されていました。これらのことから、スポーツへの興味・関心の「つながる」の項目の数値が高いのだと考えられます。

科目「体育」の学習内容は学習指導要領に記載されており、学習指導要領解説には例示が示されています。ルールや用具を工夫することで、そのスポーツの特性に触れ、楽しさや喜びを味わうためにも、学習内容を確認し、単元での指導内容を整理することが大切です。2クラスの授業も単独クラスの授業も、同じ単元では同じ学習内容となるため、「指導と評価の計画」で指導内容を整理した上で、それぞれの授業に応じたルールや用具の工夫をすることが望ましいと考えます。

訪問校8

## 県立白根高等学校

訪問日 令和7年12月8日(月)

### 〈スクールデータ〉 112名

学校の平均値

運動・スポーツが好き 74.3%(県 79.1%)

運動・スポーツへの興味・関心

する 65.1%(県 75.3%)

見る 57.9%(県 73.8%)

支える 48.6%(県 56.8%)

知る 54.1%(県 73.3%)

つながる 56.9%(県 61.7%)

体育の授業が楽しい 82.4%(県 83.0%)

### 学校紹介

大風とフルーツの街である新潟市南区に立地する唯一の高等学校であり、昭和38年の開校以来、1万人を超える有為の人材を輩出している。「自分を創っていける場所」というコンセプトのもと、きめ細やかで丁寧な指導を行い、「白高 Ripple (波紋) プロジェクト～地域へ広がる若き力～」という地域と協働するキャリア教育の実践をとおして、将来の在り方や生き方を考える機会をつくっている。

学級数は今年度から1学年が1学級となり、2・3学年が2学級の計5学級で、生徒数は114名である。

体力合計点は県平均を下回っており、運動・スポーツへの興味・関心も高くないが、体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」の肯定的評価は高く、県平均と同程度である。



### 授業1 2学年「バスケットボール」(E 球技)

【単元について】単元の時数を16時間とし、徐々にゲームライクな展開を増やしていく中でルールを理解させ、球技の特性を楽しむことができるようにしている。場面設定したタスクゲームを重ねて理解を深め、単元後半にはチームの課題に応じた練習に取り組みながらゲームを行う。

#### 【本時のねらい】

- ・ 防御をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶことができる。



二人組でフォームを確認しながら基礎技能(シュート)の練習を行う。教師の説明は師範しながら短い言葉でねらいを明確に伝えており、また、見通しをもって取り組むことができるようにデジタルタイマーで活動時間を示すことで、生徒は短時間の練習を集中して繰り返していた。



ドリブルの練習を段階的に進めていき、終盤には1対1のゲームを行った。ゲームライクな活動と教師の肯定的な声掛けで、生徒は楽しみながら技能の定着や課題を確認している。

## 授業2 1学年「バスケットボール」(E 球技)

【単元について】単元の時数を16時間とし、基礎技能を身に付けながらタスクゲームで技能の習得を確認していく。楽しくスキルアップしていけるようにペアでの活動を多く取り入れ、調べたり考えたりしたことを全体で共有する機会を設定することで、思考・判断・表現の育成の基礎を培う。

### 【本時のねらい】

- ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。
- ・味方が操作しやすいパスを送ることができる。



ペアとの活動で基礎技能を身に付けていく。ペアでのパス練習では、デジタルタイマーで活動時間を示し、1回ごとにペアが変わる中で協力しながら技能の習得を目指していた。教師が個別に短い言葉でヒントを与えたり、肯定的な言葉がけしたりすることで、生徒が改善を図りながら活動している。

<p>バスとシュートについて。 ポイント&amp;コツ</p> <p>バス 強く強いパスを出すためには、体の重心等軸とフォームの安定 正確にパスを出すには、相手の胸を狙ってバックスピンをかか 〜フェームの改善 肘をしっかりと伸ばして、手首のスナップを使い、人差し指と中 〜重心移動 膝を曲げたまま、足を踏み出したからパスを出す。 踵のガト下しないよう注意する。</p>		
--	--	--

タブレット端末を用いて、自身の考えを整理する「思考シート」に取り組みせ、個人の考えをペアやグループで共有し、全体での発表を行っている。発表は役割分担することでアウトプットも協力しながら取り組みせ、思考力、判断力、表現力等の育成の基礎を培い、次の年次以降の学習につなげている。



すべての体育授業が1学級での少人数の授業であるが、技能の程度や生徒の実態に応じた教師の肯定的な声掛けとテンポの良い展開により、意欲的に活動する生徒の姿が見られた。デジタルタイマーで活動時間を示して見通しを持たせること、短く的確な指示で生徒の活動時間を十分に確保していること、ペアやグループでの活動等、生徒が集中して活動に取り組み、楽しむことができるようにする工夫が見られた。時には教師が生徒とペアになって活動に関わりながら授業を展開する場面も見られ、生徒との適切な距離感や活動時間の確保が体育の授業の高い満足度につながっていると感じた。

生徒が苦手意識を持っている発表の機会を様々な場面で意図的に設け、ペアやグループで協力して発表させることで、生徒が役割を果たすことを実感するとともに、発表することに慣れていくように取り組んでいるとのことです。(右の写真は保健での応急手当の実習の発表の様子) 高校3年間を見通して資質・能力を育成しようと取り組まれていることから、年間指導計画に基づいて作成する各単元の「指導と評価の計画」において、系統性を意識して指導内容を整理し、生徒の学習状況を丁寧に評価することで生徒自身の学習改善につなげていくことが望ましいと考えます。



訪問校 9

## 県立村上桜ヶ丘高等学校

訪問日 令和8年1月19日(月)

### 〈スクールデータ〉 347名

学校の平均値

運動・スポーツが好き 82.4%(県 79.1%)○

運動・スポーツへの興味・関心

する 79.5%(県 75.3%)○

見る 77.2%(県 73.8%)○

支える 68.5%(県 56.8%)○

知る 65.3%(県 73.3%)

つながる 76.6%(県 61.7%)○

体育の授業が楽しい 81.8%(県 83.0%)

### 学校紹介

創立は大正2年、昭和24年に村上桜ヶ丘高等学校と改称され、現在は総合学科9学級を設置する。村上市の中心部に位置し、生徒の約7割は村上市内から通学している。校名のとおり、敷地内には約100本の桜樹が植えられ、毎年春には美しい花を咲かせる。校章には、お茶栽培の北限である村上市を示すように「お茶の花と葉」がデザインされている。



野球部、陸上競技部（R7年度、特色

化選抜対象）などをはじめとして部活動も盛んで、50%を超える生徒が運動部へ加入している。（R6学校体育調査）令和3年に体育着を一新し、ブルーのグラデーションに桜があしらわれた昇華プリントのモデルを採用している。軽量で撥水性、防風性に優れ、ロングTシャツも備えている。

### 授業1 2年生「卓球、バスケットボール、バドミントン」（E 球技）

#### 【本時のねらい】

[卓球] 相手の打球音と自分の身体の動きを同調させ、正確な打点とスイングを生み出す。

[バスケットボール] 数的有利の状況下での攻防について理解し、5対5のゲームで活かすことを狙う。

[バドミントン] ハーフコートゲーム（縦半分）でストレートに各基本ショットを使い、前後に相手を動かし得点を狙う。



授業開始時には全員でランニングに取り組む。男子は外回り、女子は内回りをそれぞれ逆走する。一周42秒の目安が示され10周する。その後は体力づくりが行われ、手押し相撲などペアでのゲームを取り入れながら、腹筋や背筋、馬跳びを全員で行う。見学者には、別メニューが与えられ、それぞれができることに取り組む指導がなされている。



バスケットボールでは、5対5のゲームに加え、3対2あるいは4対4などハーフコートで様々な条件のミニゲームに取り組みながら、空間への侵入や状況に応じたボール操作などを学習できるよう工夫されている。また、タイミングを捉えて教師がコートに入り、問いを投げかけるなどしっかりと授業に介在している。

## 授業2 1年生、2年生「卓球、バスケットボール、バドミントン」(E 球技)

【本時のねらい】 ※2年生のねらいは授業1を参照

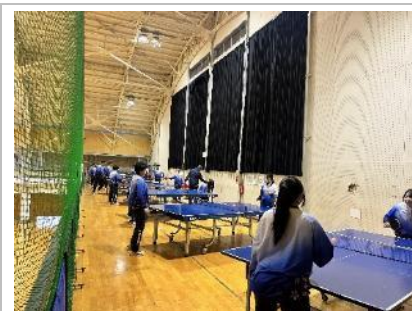
[卓球] 球を相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返す。

[バスケットボール] 味方が操作しやすいパスを送る。

[バドミントン] ハーフコートゲーム(縦半分)で基本ショットを使い、空いた場所やねらった場所に打ち返す。



バスケットボールでは、ゲーム前に基本的な技能を高めることを目的に、決められた練習メニューに全員で取り組む。毎時間、繰り返しているため、スムーズに展開されている。チームは、1年生と2年生が混在するように編制され、2年生がリードしながら活動が進められている。



卓球では、ウォームアップとしてギャラリー中央に設置したかごにボールを打ち込むゲームをしたり、タブレット端末をメトロノームとして使用して一定のリズムでラリーにチャレンジさせたりするなど、**場面を展開させることで生徒の活動意欲を引き出している。**



バドミントンでは、シングルスを中心にゲームが行われていた。**男女共習で行われており、同じグループ内で順番にゲーム、審判を分担していた。**男女だけでなく1年生と2年生が混在するようになっており、いずれのコートでも関わりが生まれるようにグループ編制されている。



基本的に2学級での合同授業を行っているが、1学年3学級のため、本時のように1、2年生各3組については異学年で組み合わせている。上級生と下級生で関わることで技能の高まりが促進され、授業の進度も早くなることからメリットを感じているとのことでした。入学年次とその年次以降では、指導内容が異なるため、同じ活動を展開する中でも評価規準を生徒と共有するなどの留意が必要です。繰り返し学習にならないよう「指導と評価の計画」で指導内容を整理した上での運用が望ましいと考えます。